

自然というものに対しての自分、そして、人間というものを考えた時に、やはりもつと自分の身の回りの事が、本当に分からなくてはいけない。いろんなものに気が付かなかつたり、知らない事も沢山ある。

また、自分は知らないと言いながら、とんでもない事をやっていることが沢山あるんじゃないでしょうか。こういうもの一つさえ分からなければ、心の世界と言つても中々受け取ってはくれないですね。

私はいろんな処に行つて、話をさせて貰うんですけれどもね、心の中では、「皆さん、分かつてください、分かつてくださいよ」と、思いながら話をしてるんですけれども、先ずそういう自分の身の回りの事を、よくご覧なさい。

二六、便利と人任せの現代——自力で掴む幸せ

何時も言いますように、「高橋先生の話をお聴きなさい」、「高橋先生の本を読みなさ

い」、「高橋先生は偉い人ですよ」と、私は宣伝している訳じゃないですよ。高橋信次先生の仰つた事、本に書いてある事は、本当に素晴らしい事なんですよ。

「それを皆さんやってみたら如何ですか——。私がやってみたらこんなになりましたよ」つて、ただ言つてるだけですね。私は、みんな分かっている訳じゃない。何でもかんでも分かつたとしたら大変ですよ。

皆さん、私の処にね、いろんな事を聞きにいらつしやるけれど、私は分からないですよ。私は占いでも、何でもありませんからね。間違つてはいけませんよ。私が何でもかんでも分かつたら、こんな事していませんよ。もうサヨナラしてますよ。——しかし、そうはいかないですね。

しかし、多少は分かるかもしれない。私の話を聴いた人が、私の話を参考にして、幸せになつて貰つたらそれで良いんですよ。

そして不調和な人は、早く調和になつて貰えればそれで良い訳ですよ。後は何も望まないですよ。それで良いんじゃないでしょうか。それ以上、何かあるでしょうか。

人間というものは、「もつと、もつと」とか、「何かないか、何かないか」と求め

る。——それは欲望ですよ。

自分の生活、自分の環境をよーくご覧なさい。其々みんな違うんですよ。

「あの人が、こういうものやってるから、私もやりたいわ」と言っても、そうはいかない。やってご覧なさい、出来ないから——。

「あの人、凄く頭良いけど、私も頭が良くなりしたい」と、思ってもならない。

「学校を出なければ、何にも出来ない」なんて、そんな事はありませんよ。大学を出ても、字を書けない人が一杯いるじゃない。本当にお粗末ですよ。平仮名は書ける。

漢字は全然知らない。字は、それこそ蚯蚓が這ったような字を書く。そういう人が、

「先生、字は要らなくなるそうですよ」

「えーっ……」

って吃驚しますよね。字が要らない、漢字も要らない。キーを一寸押したら、片仮名が出て来る。あれでいゝんですって——。

この前、車に乗せて貰って、高速道路を走った。その高速道路は、しよつちゆう通るんですね。そうしたら、最近えらいサービスが良くなった訳ですよ。

「有り難う御座いました。料金は一九〇〇円で御座います」

と、えらいサービスがいゝですね。女の人の声だ。声が聴こえるから、何処にいるのか探しても、おじさんしかない。おじさんは切符を黙ってガチャン——。機械が「有り難う」って言うから、今まで「有り難う」って言ってたおじさんが何も言わなくなつた。(笑) やっている人は、何とも思わないんじゃないでしょうか。受け取っている方も何とも思わなくなってしまう。

自動販売機もスーパ―もそうですね。レジが「有り難う御座いました」と言う。傍にいる人は、だまーって包む。——おかしいんじゃないでしょうか。

こういうものを、もうみんな何とも思わなくなつてきてるんですよ。そうでしょう。みんな其々、家の事情があつて、もう女の人が一所懸命に働く。男がだらしがないから女の人が働く。子供は、もう生まれたら直ぐ保育所や保育園。

保育所で赤ちゃんの脳波を調べたら、保母さんという時と、お母さんと一緒の時と(安心の度合いが)大して変わらない。男の人が来たら(少し緊張して)脳波が変わつた。そうだったら、保母さんでも良いんでしょか? ——良いんですって……。

そうしたら、子供は誰だれに育てられるのでしょうか？——これは、本当に子供の産うみっぱなしですね。

その子供が大きくなったらどうなるでしょうか？——心不在こころふざいですね。これは後あとで親こまは困こまりますよ。——親おやじゃない、後で困るのは、子供本人こどもほんにんなんですよ。

今度は、働はたらいて忙いそがしいから、買い物なんかしてられない。買い物が出来ないから、持つて来て貰もらう。それで、家でボタンを押したら、今日は鰯あじが幾いくら、キュウリが幾いくらと全部出て来る訳ですよ。注文ちゆうもんしたら、全部サーツと配達はいふたつしてくれる。

そして、それを開あけて料理りようりをする。鮮度せんどが良いも悪いも関係ないですよ。もう、何でもいゝ訳ですよ。

そうなると、これが良い、あれが良いと選定せんていする事も出来なくなってしまうんですね。そうしたら、話も出来なくなる。人を見て、あの人どうだこうだも無くなってしまうと思いますよ。

最近では歩かなくてもいい。便利べんりですね、これは——。しかし、心の方は何処あつちに行ってしまったんでしょう。人と接せつする——そういうものが全然無い。人に対しての慈いづく

しみというものも全然無くなってしまう。

頼たのめば持つて来てくれる。終しまいに、「誰か来て、ご飯炊はんたいてくれないかな」ってなるんじゃないでしょうか。終しまいに、口開くちあいて、「ご飯入れてくれ」って言うんじゃないでしょうか。(笑)

もう、人間はそこまで来ているんですよ。恐ろしいですね。

前にも一寸申し上げましたね、大阪おおさかの方のマンションの一棟いっとうの中を調査ていさしてみた。包丁ほうちようが無い人が三〇%いたそうですよ。三〇%ですよ——。子供がいるんですよ。

どんな事やって食べているんでしょう？——スーパーに行ったら、みんな小さい袋ふくろやトレーに入いって売うってる訳ですよ。もう切きつてあるし、調理ていりまでしてある。弁当べんせうもおかずもみんな売うってますよね。食器しょくきもそんなに要いらないですよ。そのままトレイいで出して、食べたら捨すてればいい。

「台所だいじょうは何に使つかってるんですか？」

「はい、物を置く処ところに使つかってます」

って言うてましたが、ガクンとききますよね。

小学生が鉛筆を削れなくなる。当然ですね。「鉛筆を削ってご覧下さい」と言ったら、鉛筆削り器をガーツとやって、これが鉛筆削り——。「ナイフで削ってみなさい」と言ったら出来ない。

先程言いました、高校生がお釈迦さんを知らないのと、これはもう大した変わりはないですね。

もう人間というものは、物、物、物……。自分さえ、自分さえという人ばかりになってくる。面倒臭い事は人がやってくれと、段々そうなってくる。

私達は今、本当に人間として、いかに生きるべきかという事を考えるべきだと思うんですよ。何も過去の事を、あゝだこうだ言ってもしようがないですね。未来の事を言ってもしようがないですよ。今を一所懸命に生きる事が大事だと思うんですね。

それには、自分の心というものを、二回も三回も発見し、そして前進していかなくてはいいですね。

それが出来て、初めて人間に幸せをもたらすんじゃないかと思うんですね。

自分が困って、人に尋ねても、押んでも、押んで貰っても、お経を、「ナムアマミダ

ーブー……」とやっても、「ナムミヨーホーレンゲーキョー……」とやっても、「カ
ンジーザイ・ボーサツ・ハンニャーハーラーミータージ……」、また、「アーメン」
と幾らやっても、その人の苦勞は取り除いてくれませんよ。絶対に除いてはくれない。
もし、除いてくれるという人がいたら、それはもう正しいものじゃないですよ。

「あなたは、自分でやりなさい」

——これは、正しいと思うんですよ。

だって自分の事は誰がやってくれますか？——そうですね。そうしたら、自分に
やっぱり厳しいもの——自分というものが、何故この世の中にいるのか、どうしてい
かなくてはいけないのか——本当はそれをよく知るべきだと思うんですね。

——次回に続く

次回『二七、人間とは何ぞや』の小見出しページ公開予定は、7月の第25週目
です。どうぞお楽しみに。

